

陸上部・ゴルフ部・水泳部 チアリーダー部 全国大会出場

市高新聞



発行者
富士市立高校
報道部

富士市比奈 1654
TEL 34-1024

今年の夏に行われた全国大会に、陸上部・ゴルフ部・水泳部・チアリーダー部が出場した。陸上競技女子1000m、2000mで小針陽菜さん(16HR)、水泳競技3m飛板飛込シンク口で内藤栄将さん(32HR)がそれぞれ第2位に入賞した。

陸上部

中学時代にも全国大会への出場経験がある小針さん。高校生になつて初めての全国大会に挑戦した。親が陸上のコーチだったため幼い頃から続けて来た陸上の全国大会出場が決まった時はとても嬉しかったが、それまでの練習は容易なものではなかった。全国大会前は、苦手とするスタートの対策としてあらかじめハンデをつけた走者を前に置き、それを追いかける練習を繰り返した。練習に打ち込む一方、帰宅後には時間さえあれば机に向かった。試合にも課題を持って行き、夜や試合のない日に勉強をするなど勉強と部活動を両立するための努力は欠かさなかった。



表彰式後の小針さん

「全国優勝する」という目標に向かって練習に励む日々。小針さんを支えたのはクラスのみんなが送ってくれた応援動画だという。何度も励まされ、泣きそうになるほど嬉しかった、と大会前の心境を振り返る。

大会当日、1000mは、相手の作戦に引っかけ、自分の納得のいく走りができなかった。一方、2000mは、前半から自分のペースができた。自己評価は90点。「たくさんの温かい応援のおかげで全国2位を取ることができました。この結果は自分一人では成し遂げることができなかったと思います。支えてくれた皆さん、ありがとうございます」と周囲への感謝の気持ちを述べた。

ゴルフ部

父親の影響でゴルフを始めた金指統哉さん(36HR)。全国大会が決まった時はうれしかったが、全国大会出場決まるとは、もっと良いプレーができたのではないかとこの思いもあつたという。そんな今までの自分を超えたいという気持ちをモチベーションとし練習に力を入れ、特に飛距離を伸ばすことや、コー



内藤さん・柳沼さんによる演技

水泳部

高校生活最後の全国大会に、初めての表彰台を懸けて挑んだ内藤さんは、全国大会出場が決まり安心した反面、更なる高得点を狙い新品种目の305B(前逆宙返り2回半エビ型)に挑戦することを決意した。

305Bは、空中感覚を掴むことがとても

スマネジメントのミスがなくすことを意識した。練習は勉強との兼ね合いもあるため、時間を効率良く使うことを心掛けたそうだ。

全国大会は、35点という低めの自己評価だった。しかし全国の舞台は最高に楽しかったと思えるものだった。大会を終えて、「二日目は思うようにい



金指さんのプレー中の様子

難しく、何度も失敗したが諦めることなく挑戦を繰り返した。

練習は平日3時間、休日は朝から晩まで、休息日は週2日という過酷なスケジュールの中で、個人種目入賞、柳沼凌士さん(浜松開誠館高校)と共に出場するシンク口種目においては表彰台に上るという目標を掲げ、苦手種目や基礎にも重点的に取り組んだ。

全国大会当日は、大会のたびに顔を合わせる仲間と共に緊張感を持ちながらも楽しんで競技に挑むことができたという。個人種目では、惜しくも表彰台に上ることができなかった。自分の満足のいく結果を出すことができなかったことがとても

悔しいと語ったが、シンク口種目では、失敗のない完璧な演技を披露した。見事目標を達成し、高校に入学してから初の全国表彰台に上った。

全国大会出場には競技以外にも楽しみなところがあると内藤さんは言う。それは、普段は会えない競技仲間との再会や日本各地の観光や食を楽しむことだ。今度、今回訪れた高知県では、桂浜に足を運ぶ、ソウルフードであるかつおのたたきを堪能した。

試合後、柳沼さんと2人で上った表彰台は思っていたよりも狭かったと喜びを話し、今まで支えてくださった方々への感謝の気持ちを語った。

チアリーダー部

7月30日に東京体育館で開催された全国高等学校ダンスドリル選手権大会に、鈴木心椋さん(35HR) 菊池夢来さん(31HR) 石川紫月さん(35HR) 新久保雅さん(32HR) 柴田妃菜さん(34HR) 朝木未結さん(34HR) 野田侑杏さん(26HR) 松浦つぐみさん(26HR) サポーターで、谷田部早紀さん(22HR) 松尾果南さん(22HR) 小川路美さん(22HR) 小川路美さん(16HR) が出場した。

部長を務めた鈴木さんは、全国大会が決まったときのことを、「嬉しい気持ちはあつたが、目標は全国大会で入賞することだったので、全国大会出場は通過点に過ぎなかった。」と振り返った。全国大会までの週5日の練習では、仲間が真剣に踊っている姿に触れ、自分も頑張らなければならぬと気持ちも新たに取り組んだ。

今年の全国大会は3年ぶりに有観客での開催となった。3年生にとっては自分たちの目標を達成することができ、最後のチャンスであり、必ず入賞するのだという強い思いで大会に挑んだ。会場の空気は本番前の緊張感に包まれていた。そのような中、演技終了後に全員が自然と涙するほど悔いなく踊りきり、最終的には全国大会入賞という目標を達成することができた。しかし、それでもまだチームに足りないことはあると感じたため、演技終了後は実力のある他のチームの演技を間近で観て、そこから貪欲に学ぶ姿勢を忘れなかった。

大会を終えて、「1年かけて作り上げた演技を無事に終えられたことに、ほっとしている。これまで応援してくださったすべての方にも感謝している。」と率直な思いを語った。

新体制となったチームについて、「2年生を中心に早い時期から踊りが完成し練習に取り組みんでいる。すでに大会に出場し経験を積んでいるので、今の実力や足りないところを確認できていくと思う。全国大会入賞を、常にできるくらい強いチームになつてほしい」と今後の活躍への期待を語った。



全国高等学校ダンスドリル選手権大会2022 パフォーマンス後のチア部の皆さん

一期一会

18歳になった3年生の皆さん。今年の7月に行われた参議院選挙では投票に行きましたか。選挙のたびに最近言われるのが、若者世代の投票率の低さです。選挙に興味がない、投票しても意味がないと感じている、だれに投票すればいいかわからない、若者世代が現状に満足していないなど、投票に行かない理由は様々です。

10代と20代の投票率が高いデンマークやスウェーデンでは、普段から家庭で政治の話をしたり、政治家と高校生が対話をする機会があつたりと、政治というものを身近に感じるチャンスも多いと言います。若者世代の政治への高い関心は同世代の議員も多く生み、結果として高い投票率を保っています。

富士市立高校でも、探究活動での法案作成や模擬議会を通して主権者教育を行い、議員を選ぶことは、自分が暮らしたい社会を実現することに繋がる大切な行動だということを学んでいます。18歳になつたら、これらの活動で学んだことを生かして投票に参加し、自分の意見を政治に反映させる一歩を踏み出してみませんか。

●1面担当者
坂本彩実・高村彩音・田中那奈(2年) 山本駿太・小林輝幸(1年)

富士市立高校の歩み

活躍している 卒業生

富士市立高校となりこれまで多くの先輩方が卒業されました。幅広い世界でご活躍されている諸先輩を紹介します。



石川友紀乃さん
(5期生・ビジネス探究科卒)

【立教大学を卒業後、合格率10%といわれる公認会計士を目指し、現在は論文試験の結果を待っている。】

ておけば良かったこと

人前でスピーチをする練習をもっとちゃんとしておけば良かったと思う。

Q1 高校時代に力を

入れたこと

定期テストや朝テストで自分の納得する成績をとること、様々な資格試験にチャレンジしたことです。

Q2 高校時代にやっ

としたこと

Q3 市立のよいところ

Q4 市立のよいところ

Q5 市立のよいところ

Q6 市立のよいところ

Q7 市立のよいところ



望月 あんさん
(4期生・総合探究科卒)

【高校卒業後、アメリカにあるホリンス大学へ進学。現在は、アメリカカタフツ大学の大学院で研究をしている。】

Q1 市立で良かったこと

海外研修でポストンへ行ったこと。それがきっかけで街が気に入って、今ポストンに住んでいます。

Q2 高校時代にして

おけば良かったこと
他校や県外の人たちと繋がること。現在はオンラインで何でもできる道を選んでください。

Q3 市立のよいところ

Q4 市立のよいところ

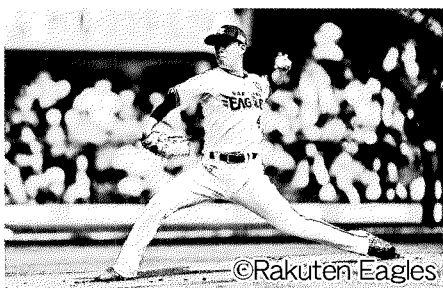
Q5 市立のよいところ

Q6 市立のよいところ

Q7 市立のよいところ

Q8 市立のよいところ

Q9 市立のよいところ



藤井 聖さん
(2期生・スポーツ探究科卒)

【プロ野球団体楽天に所属し、投手として活躍。】

Q1 高校時代について

しっかりと学校生活を送ることを意識しました。寮生活や部活で野球の仲間たちと過ごすことができ、野球に

Q2 市立で良かったこと

設備が充実していて、3学科ある中でスポーツに特化したスポーツ探究科でさまざまなスポーツを経験、学習することができたことです。

Q3 今後の目標

一軍の舞台で活躍して有名になり、富士市立高校の名をあげること！

Q4 市立のよいところ

素晴らしい環境の中で取り組んでいることを最大限利用して、たくさんのことにチャレンジしてください。

Q5 市立のよいところ

素晴らしい環境の中

Q6 市立のよいところ

素晴らしい環境の中

地域社会と富士市立 高校のつながりと未来

富士市立高校となって12年が経ちました。そこで学校の特色である、地域連携事業の今後を考えました。

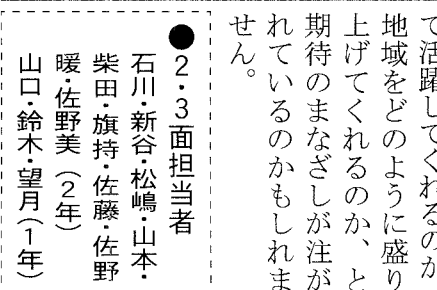
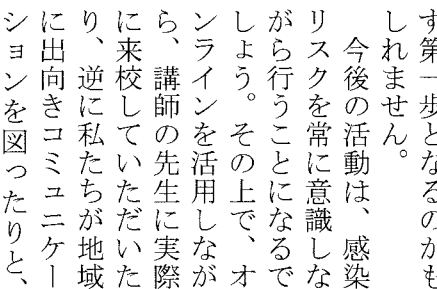
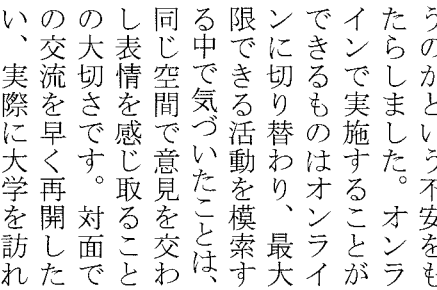
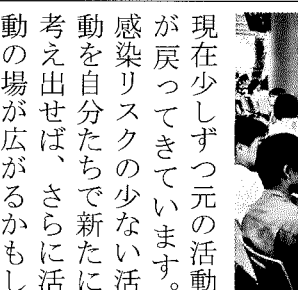
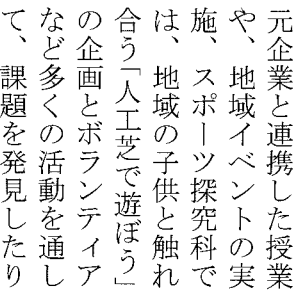
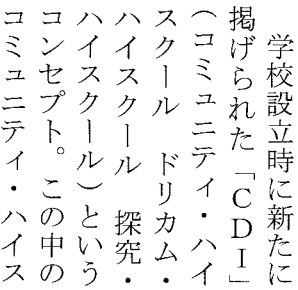
学校設立時に新たに掲げられた「CDI」(コミュニティ・ハイスクール・ドリカム・ハイスクール)というコンセプト。この中のコミュニティ・ハイスクールを具現化するために地域連携事業は立ち上がりました。地域の一員であるという自覚を持ち探究活動や研修、日々の授業の中で

地域の企業と連携した授業や、地域イベントの実施、スポーツ探究科では、地域の子供と触れ合う「人工芝で遊ぼう」の企画とボランティアなど多くの活動を通して、課題を発見したりグループで解決策を考え、プレゼンをしたりという経験を重ねています。

しかし、ここ数年のコロナウイルス感染症の拡大は、地域連携事業の実施に大きな影響を与えました。ほとんどの事業が中止または延期となり地域の中学校、大学、企業やコミュニティとの研修の機会がなくなり、3年間及び活動の中止や縮小は私たちが含めた参加者の楽しみを奪うだけでなく、今後の活動を継続できるのか、探究はどうなってしまうのかという不安をもたらしました。オンラインで実施することができるとはオンラインに切り替わり、最大限できる活動を模索する中で気づいたことは、同じ空間で意見を交わし表情を感じ取ることの大切さです。対面での交流を早く再開したい、実際に大学を訪れ

今後地域連携事業をコロナ前のものにしたい。私たちが気をつけるべきこと。それは、感染対策を徹底することはもちろんのこと、なにより大切なのは地域の人々との信頼関係や普段からの人間関係の構築ではないでしょうか。私たちがこの活動から何を学び、どう成長するのかをしっかりと地域の皆さんに理解していただくことが、活動を元に戻す第一歩となるのかもしれない。

今後の活動は、感染リスクを常に意識しながら行うことになるでしょう。その上で、オンラインを活用しながら、講師の先生に実際に来校していただいたり、逆に私たちが地域に出向きコミュニケーションを図ったりと、



地域の企業のお話を聞くビジネス探究科

地域の子どもたちと触れ合うスポーツ探究科

海外研修での活動風景

海外研修での活動風景

海外研修での活動風景

海外研修での活動風景

海外研修での活動風景

海外研修での活動風景

海外研修での活動風景

海外研修での活動風景

海外研修での活動風景

海外研修での活動風景

海外研修での活動風景

海外研修での活動風景

海外研修での活動風景

海外研修での活動風景

海外研修での活動風景

海外研修での活動風景

海外研修での活動風景

海外研修での活動風景

海外研修での活動風景

海外研修での活動風景

2・3面担当者

石川・新谷松嶋・山本

柴田・旗持・佐藤・佐野

暖・佐野美(2年)

山口・鈴木・望月(1年)

～過去から今へとつながる想い～

吉原商業から 富士市立高校へ

市立設立秘話

私たちが通う富士市立高校にどのような歴史があり、どのように変化してきたのか、それを考えたことはありませんか。普段の学校生活の中ではなかなか知る機会がないと思います。そこで学校をよく知る先生にお話を伺うため、吉原商業時代から勤務されている石川須美子先生と、吉商時代に生徒でいらした荒川竜士先生に取材をしました。

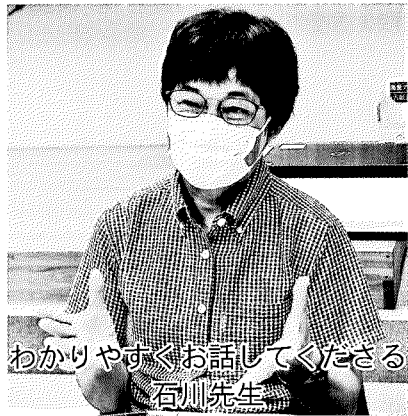
石川先生

Q1 吉原商業から富士市立高校になった際、どのような仕事・準備・決めたことがありましたか。

最初に3つの科の名称を決めました。それからその中でどんな学習をしていくのかカリキュラムを考えていきましました。私は総務課という分掌だったので、富士市立高校開校記念式典の準備や運営をしました。

Q2 中でも一番大変だったことは何ですか。

「探究」の「究」の字を決めるときです。今は「究」という字を使っていますが、「求」とすくも悩み議論の対象となりました。また、サテライトは開校当時、放課後に週2日ほどあり、文化部は17時から19時、運動部は19時から21時に行いました。夕食は学校にケータリングの車が来ていたので、そこで購入したりしていました。



わかりやすくお話ししてくださる石川先生

Q4 探究科になったことによる一番の変化は何ですか。



笑顔でお話ししてくださる荒川先生

生徒だと思いません。市立生は集会や講演会の後などで急にマイクを向けられてもすぐに答えられますが、商業時代の生徒はそんなことはありませんでした。すぐに答えることができるのは探究科になったからだと思います。

Q5 探究が始まった当時、先生方はどう感じていましたか。

担当になった先生は一般の会社の方と一緒に外部に研修に行き、探究の内容をどうしたらいいのか案を出してくれました。先生方も実際にディベート大会などを行い、生徒に教えることができるようになりました。

Q3 印象に残っていることは何ですか。

「探究」の「究」の字を決めるときです。今は「究」という字を使っていますが、「求」とすくも悩み議論の対象となりました。また、サテライトは開校当時、放課後に週2日ほどあり、文化部は17時から19時、運動部は19時から21時に行いました。夕食は学校にケータリングの車が来ていたので、そこで購入したりしていました。

Q6 富士市立高校が開校してから12年間で印象に残っていることを教えてください。

野球とサッカーの全校応援です。学校のみならず一体となって頑張っていることが実感できてとてもいい思い出になっています。

荒川先生

Q1 吉原商業高校時代と富士市立高校の生徒の違いは何ですか。

昔の生徒は活発で悪く言うとか騒がしかったです。今の生徒は落ち着いたイメージです。行事では、今の生徒もまじめに頑張っています。

Q2 当時の学校の雰囲気は教えてください。

とにかく元気があり、女子生徒が多かったです。で、明るかったです。生徒だけでなく先生も活発な方が多かったです。

Q3 吉原商業時代に比べて今の学校の雰囲気はどうですか。

昔は先生たちと言いつつ、争う生徒が多かったです。今のほうがまじめで、一つ一つのことにしっかりと取り組んでいる生徒が多いです。

Q4 校則で変化したところを教えてください。

校則はあまり変わっていませんが、男子は制服がブレザーでした。また、掃除が放課後にあり、7時間目もなかったという違いがあります。富士市立高校の新入生が入ってきてから、登校時間が8時から、8時15分までになりました。

施設管理員さんのプロフィール

皆さんはなぜ学校が常に綺麗に保たれているか知っていますか。その秘密には施設管理員さんたちが大きく関わっています。今回はそのお二人をご紹介します！

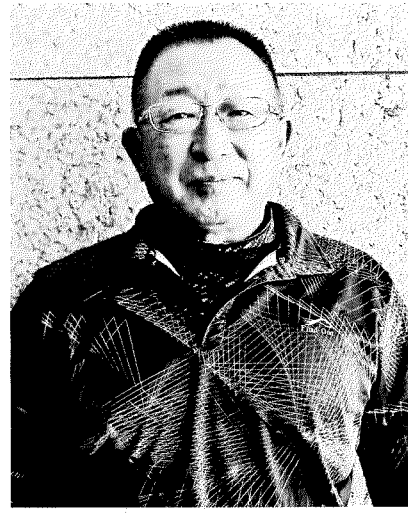
①仕事内容
学校全般のごみの管理。清掃。樹木の手入れ。事務員さんの手伝い。

②仕事の悩み
どうしてもっと学校が綺麗になるかが悩み。学校を隅々まで綺麗にすることは難しい。校舎の中は、生徒の皆さんが綺麗にしてくれるが外は草がすぐに伸びてしまい、手入れが大変。特に、夏の炎天下での作業は1時間もかかってしまう。

③メッセージ
いつも明るい挨拶をしてくれて、こちらも気持ちよく仕事ができます。生徒の皆さんには、楽しく笑顔を絶やさない学校生活を送ってほしいです。そしてお互いに助け合うことを大事にしてほしいです。



大久保豊さん



門傳京一さん

③メッセージ
生徒の皆さんは私にも来訪者も含めて良く挨拶してくれますが、もっとしてもいいと思います。挨拶は自分のためでもあり、どこへいっても挨拶ができる人は好印象を持たれると思います。そして好き嫌いをなくいじめなど起きないように、皆仲良くしてほしいです。

取材メモ
私たちの快適な学校生活は、施設管理員さんのおかげで成り立っているとんでも過言ではないことが分かりました。中でも印象的だったのは、危険な場所での樹木の伐採や、大型バスの免許を63歳で取得されたという話です。お二人とも、とても気さくで生徒思いの施設管理員さんでした。日々、陰で支えてくださる方々に感謝の気持ちを忘れずにこれからの学校生活を送っていききたいものです。

勉強の休憩時間にスマホを使っていますか

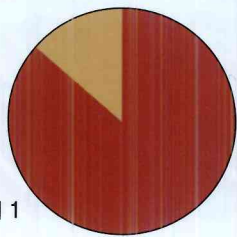


図1

自分はスマホと勉強の区別がついていると思いますか

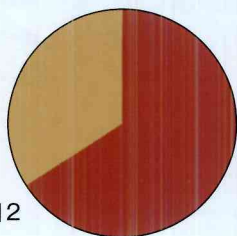


図2

平日のスマホの利用時間

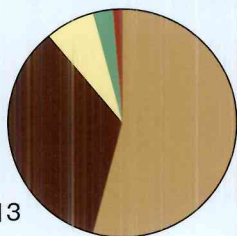


図3

休日のスマホの利用時間

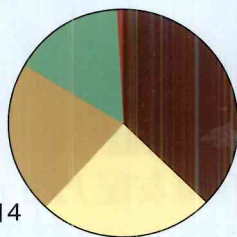


図4

スマホの恐怖

勉強をしてもスマホ使用で点数が下がる!?

勉強していたはずなのにいつの間にかスマホをいじっている……。そんな経験が少なからずあるだろう。そんなあなたのために報道部は、本校の生徒にアンケート調査を行い、市高生の勉強中のスマホ利用の実態を調査した。スマホと勉強の区別がついていると思うかという質問には、区別が「ついている」という回答が約66%、「ついでない」という回答が約34%という結果であった。区別がついていると回答した人が心掛けていることは、動画やSNSを休憩時間の楽しみにすること、スマホの電源を切ったり、違う部屋にスマホを置き、視野に入れないようにしたりすることなどという。勉強の休憩のためのスマホの利用時間は10分30秒の回答が多く、勉強で分らないものが、リフレッシュに動画を見たり、音楽

を聴いたりする人や、SNSを利用する人がほとんどであった。図3と図4を比べると、平日よりも休日のほうが圧倒的にスマホの利用時間が長いことが分かった。休日の1日あたりの利用時間は、4~6時間が37%と最も多かった。また、16%の人が休日には10時間以上使用している

と回答した。致知出版社の「スマホと学力低下の恐ろしい関係」7万人の子供の脳を調べて分かったこと「LINEや、TikTokなどの使用により脳が抑制され、眠った状態と同じになってしまうという。LINEの文面を見ると、「どこいく?」「ご飯何にする?」などの、幼稚園児レベルの会話しかしていない。LINEやTikTokの利用は、自分の新しい知識につながらず、脳が働かないのだという。そして、その影響で、SNSを1時間使用すると、脳はテストで5点分のダメージを受けてしまう。勉強時間や睡眠時間を確保していても、スマホの使用によって脳の中の学習した記憶が消え、点数が下がるのと同様の影響がある。スマホの使用による勉強への影響は、スマホの使いすぎにより勉強時間が減ってしまうことや、ながら勉強により、集中できないことであると考えられている。しかし、スマホと勉強の区別をし、勉強時間を確保している人であってもスマホの利用方法によっては、勉強の成果が損なわれてしまうということも分かった。勉強とスマホの区別がついていないと答えた人であっても、その適切な使用方法について今一度見直す必要があるのではないだろうか。

Professional

職業探訪 ~フラワーアーティスト~



今回取材させていただいた村瀬将之さん

皆さんは、お花を手にする機会はありませんか。ほとんどの方が花を手にするのは、母の日や入学式・卒業式でしかないとはいえないと思います。そこで今回は、生花店「花のむら」のむらさん

Q1 なぜフラワーアーティストになるうと思われましたか。
元々両親が生花店を営んでいて、小さい頃から花と接して、花への向き合いの日本と外国との違いについて知ることができました。

Q2 フラワーアーティストになるには資格は必要ですか。
資格と免許は不要です。大事なのは、センスと技術です。1つの花でも見せ方に個性が出るので経験を積み重ねていくことが重要です。

Q3 仕事をする上で意識していること、大切にしていることは何ですか。
スタッフを大事にすることが1番重要だと思います。数年前に内装にこだわりのお店をリニューアルした際に、鮮やかな緑と色とりどりの花が際立つようにしました。それによってスタッフのモチベーションも上がって、花への接し方が変わりました。花に対する意識が高まった

Q4 7月にフランスで行っていたようですが、どのような活動をしましたか。
国内で行われた「Flower Art Award 2019」というチャンピオンズカップで優勝し、コロナの影響により3年越しになった世界大会に出場してきました。結果、8か国中2位でした。優勝を狙っていたのでとても悔しかったです。

Q5 今回のフランス訪問はどのような経験になりましたか。
国内で行われた「Flower Art Award 2019」というチャンピオンズカップで優勝し、コロナの影響により3年越しになった世界大会に出場してきました。結果、8か国中2位でした。優勝を狙っていたのでとても悔しかったです。

Q6 日本でも花が当たり前の存在になるためにどんなことをされていますか。
そのために「魔の花瓶」というサブスクリプションのサービスをしています。このサービスは、月に定額を支払うと、花瓶を持っていくだけで新しい花が届くという仕組みです。日本人の花に対する意識を少しでも変えられるような活動をしていきたいです。

Q7 今後の目標は何ですか。
もう一度世界大会に挑戦し優勝を狙いたいですし、花を生かした新しい活動にも取り組みたいです。日本人の花に対する意識を少しでも変えられるような活動をしていきたいです。

Q8 海外に行く度に外国の花に對する価値観の違いについて考えさせられます。外国では一人一人、花に對する気持ちが強く、常に身近なものとして暮らしているのになぜ日本では一部となつていますが、日本ではイベントや行事などがなく、日々の生活に花が馴染みがないのは、なぜだと思いますか。
海外に行く度に外国の花に對する価値観の違いについて考えさせられます。外国では一人一人、花に對する気持ちが強く、常に身近なものとして暮らしているのになぜ日本では一部となつていますが、日本ではイベントや行事などがなく、日々の生活に花が馴染みがないのは、なぜだと思いますか。



色とりどりの花で花束を作る様子

皆さんは、お花を手にする機会はありませんか。ほとんどの方が花を手にするのは、母の日や入学式・卒業式でしかないとはいえないと思います。そこで今回は、生花店「花のむら」のむらさん

Q9 今回のフランス訪問はどのような経験になりましたか。
国内で行われた「Flower Art Award 2019」というチャンピオンズカップで優勝し、コロナの影響により3年越しになった世界大会に出場してきました。結果、8か国中2位でした。優勝を狙っていたのでとても悔しかったです。

Q10 今後の目標は何ですか。
もう一度世界大会に挑戦し優勝を狙いたいですし、花を生かした新しい活動にも取り組みたいです。日本人の花に対する意識を少しでも変えられるような活動をしていきたいです。

Q11 海外に行く度に外国の花に對する価値観の違いについて考えさせられます。外国では一人一人、花に對する気持ちが強く、常に身近なものとして暮らしているのになぜ日本では一部となつていますが、日本ではイベントや行事などがなく、日々の生活に花が馴染みがないのは、なぜだと思いますか。
海外に行く度に外国の花に對する価値観の違いについて考えさせられます。外国では一人一人、花に對する気持ちが強く、常に身近なものとして暮らしているのになぜ日本では一部となつていますが、日本ではイベントや行事などがなく、日々の生活に花が馴染みがないのは、なぜだと思いますか。

編集後記
今年のタブロイド版では、今年で設立から12年を迎える富士市立高校について特集しました。知られざる設立当初のエピソードや、私たちの学校生活を支えてくださる施設管理員さんの紹介など、生徒の

皆さんは、お花を手にする機会はありませんか。ほとんどの方が花を手にするのは、母の日や入学式・卒業式でしかないとはいえないと思います。そこで今回は、生花店「花のむら」のむらさん

皆さんは、お花を手にする機会はありませんか。ほとんどの方が花を手にするのは、母の日や入学式・卒業式でしかないとはいえないと思います。そこで今回は、生花店「花のむら」のむらさん

皆さんは、お花を手にする機会はありませんか。ほとんどの方が花を手にするのは、母の日や入学式・卒業式でしかないとはいえないと思います。そこで今回は、生花店「花のむら」のむらさん

4面担当者 中野倫未・望月慧 風(2年) 小林萌花・川口遙 佳(1年)